

Hallo Japan 2018

説明会



日独ユースネットワーク

『ハロープログラム』とは？

- ◆ ドイツと日本の若者のための交流プログラム
- ◆ ドイツと日本の**18歳～30歳**の若者が対象
- ◆ 毎年交互にドイツ(Hallo Deutschland)と日本(**Hallo Japan**)で開催
- ◆ メインプログラム「ユースサミット」、様々な都市での**フィールドワーク、文化活動**などを通して、その国や人々と深く交流



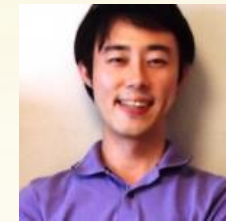
主催団体

日本側



JG-Youth (日独ユースネットワーク)

日本全国での若者の日独交流促進を目的に、イベントやプログラムを企画運営。DJJGのカウンターパートとして、ハロープログラムの運営を担う。全国日独協会連合所属。



代表: 高橋正樹

ドイツ側



DJJG (独日青少年協会)

「ハロージャパン2005」プログラムの参加者によって、2006年4月にフランクフルトで設立。独日協会連盟所属の若者団体。



会長: Ariane Herold

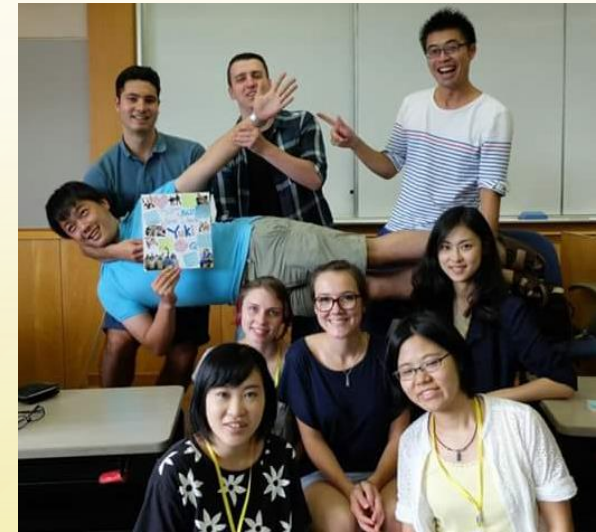
これまでの歩み

2005年の第1回プログラムから、延べ約**800**名が参加。
プログラム後、参加者の多くがドイツや日本などで留学や就職をし、グローバルな社会の第一線で活躍をしています。

開催年	イベント	開催地	ユースサミット参加人数		インターンシップ・ホームステイ	
			日本	ドイツ	参加対象	参加人数
2005	Hallo Japan 2005	千葉	40	75	ドイツ人	65
2006	Hallo Deutschland 2006	ベルリン	15	17	－	－
2007	Hallo Japan 2007	東京	55	65	ドイツ人	62
2008	Hallo Deutschland 2008	ベルリン	45	35	日本人	28
2009	Hallo Japan 2009	東京	99	105	ドイツ人	62
2010	Hallo Deutschland 2010	ベルリン	28	20	日本人	4
2011	震災のため開催中止					
2012	震災のため開催中止					
2013	Hallo Deutschland 2013	ベルリン	20	20	－	－
2014	Hallo Japan 2014	東京	19	20	－	－
2015	Hallo Deutschland 2015	ハノーヴァー、 デュッセルドルフ、 ベルリン	19	20	－	－
2016	Hallo Japan 2016	那須、東京	19	20	ドイツ人	19
2017	Hallo Deutschland 2017	ハンブルク、 リューネブルク、ロ ストック、ベルリン	19	19	－	16

プログラムの特徴

- 観光では知ることのできない日本、出会うことのできない人々と交流できる
- 密度の濃い10日間で、日独に一生の仲間を得られる
- ボランティアの運営スタッフによって運営
- 運営スタッフの多くは、自分の素晴らしい体験を残したいと願う元参加者
- ドイツ/日本への高い関心と強いモチベーションがあれば、誰でも応募可能



Hallo Japan 2016 紹介動画

- Hallo Japan 2016 の動画
- <https://youtu.be/LEL-bYSBtys>

※他の年の動画も公開されているのでぜひ見てください！

Hallo Deutschland 2013

<https://www.youtube.com/watch?v=UZAXtttBZAM>

Hallo Japan 2014

<https://www.youtube.com/watch?v=kZ-zdvBuyDY>

Hallo Deutschland 2015

<https://www.youtube.com/watch?v=AgGKB7E-U8U>

Hallo Deutschland 2017

<https://www.youtube.com/watch?v=FfCFJgAOWEk>

「Hallo Japan 2018」 スケジュール

- 8月24日（金） **チェックイン、オリエンテーション**@横浜
- 8月25日（土） 全体プログラム@横浜
- 8月26日（日） 代々木オリンピックセンター（オリセン）に移動
全体プログラム@オリセン
- 8月27日（月） **「第12回日独ユースサミット」開会式**@ドイツ大使館
グループワーク
- 8月28日（火） グループワーク
- 8月29日（水） 全体プログラム@オリセン
- 8月30日（木） グループワーク
- 8月31日（金） 最終プレゼンテーションの準備@オリセン
- 9月01日（土） **最終プレゼンテーション**@オリセン&打ち上げ
- 9月02日（日） チェックアウト、解散

※スケジュールは変更となる場合があります

第12回日独ユースサミット

- **5つのグループ**に分かれ、各テーマに関する活動を行う
- グループごとに、施設やテーマに関わる活動を行っている人々を訪ねる**フィールドワーク**を行い、**ディスカッション**を重ねる
- 最終日に各グループは**未来への提言**を全員の前で**発表**
※プログラム参加者以外の人でも聞きに来ます！



大テーマ

情報社会と多様性 ～私たちを変えるもの、私たちが変えるもの～

情報通信技術(ICT)の発達をもたらした変化

- 個々が情報を容易にかつ多くの人に発信可能に
⇒知られていなかった多様性が広く認知されるように
- 知的作業をAIなど代替できるように
⇒一部の仕事（職業）が機械に代替

私たちを変えるもの、私たちが変えるもの

このような時代で何が課題なのか、私達が今からできることは何かを考えていきます

5つのグループ

A: 政治グループ	Politikgruppe
B: 教育グループ	Bildungsgruppe
C: 文化グループ	Kulturgruppe
D: 技術グループ	Technologiegruppe
E: 社会グループ	Gesellschaftsgruppe

A: 政治グループ

「ネット民主主義」においてどのようにして国民の意見が政治により反映されるようになるか、また同時に政府はどのように差別的表現・犯罪助長的表現を抑制することができるか

政治グループは社会の急速な情報化が政治にどのような影響を与えるのかを議論します

- 第一にネット投稿の政治に与える影響力
- 第二に政府がどのように差別的・犯罪助長的表現を規制できるのか
- 情報化社会において、個人の自由で広範な表現の場ができた一方で、それによる弊害をいかに防止するか

B: 教育グループ

「教育」はICT、AIの力をどこまで借りることができるのか

教育グループでは、ICTやAIが教育に何をもたらしたか、それらをどう「適切に」使うべきか、を議論します

- 本当にICTによる教育は効率的なのか、紙、PC、タブレット…様々な方法について
- ICTは現状、どこまで到達しているか、今後普及するに於ける課題
- ICT、AI化により経済格差が拡大する危険性？

C: 文化グループ

ソーシャルメディアとの向き合い方

文化グループは以下の疑問点の調査を通じて、ソーシャルメディアとの適切な向き合い方を模索します

- なぜ私達はソーシャルメディアを使用するのか？何故依存してしまうのか？
- ソーシャルメディア依存の傾向はどのような人に多くみられるのか？
- 依存性を抱えつつも、ソーシャルメディアは現代社会と相即不離(そうそくふり)の関係である以上、どのように向かい合うのが正しいのか？

D: 技術グループ

ICT技術とコミュニケーション

技術グループは「コミュニケーションのあるべき姿は何か？」について考えます

- 「コミュニケーション」はどうあるべきものなのか
- ICTによって現在のコミュニケーションにはどのような変化がもたらされているのか
- コミュニケーションはICTにどこまで頼るべきなのか、頼るべきでないコミュニケーションは何か

E: 社会グループ

高度に情報化する世界の中で、多様な私たちはどのような社会を目指すのか
～私たちの「出来ないこと」～

社会グループは多様な私たちはどのような社会を目指していくべきかを考えます

- 宗教、文化、主義、先天的/後天的身体能力、性自認、性的指向、身体的属性（健康状態・障がいの有無含む）などの背景から、私たち一人ひとりには様々な「出来ないこと」が個人レベルで存在する
- 多様な個性を持つ人々が世界に情報を発信することで、情報社会の中で多様性が可視化され、注目さえもされている

全体プログラム

大テーマに関わる内容の講演やワークショップを用意しています

- **ICTのない世界の体験**

この場合、ICTがなかったらどうしていただろう？
ワークショップを通じて、あるお題に対して自分ならICTを使うか、使わないかについてじっくり考えます

- **ICTの活用を考える～浪江町を事例として～**

福島県浪江町においてタブレット端末を活用し、被災地の復興を目指した事例を紹介。グループワークを通じて、ICTの活用について考えます

- **『「ハーフ」がひらく日本社会のダイバーシティ』 講演**

日独ハーフのコラムニスト、サンドラ・ヘフェリンさんを講師としてお招きし、多文化共生社会について考えます

- **働き方の多様性**

ワークショップを通じて参加者同士で働き方の多様性を議論し、今後自分はどんなことを挑戦していくかを考えます

過去参加者の体験談

- 自己紹介
名前、参加年度、参加グループ（テーマも）
- プログラム参加のきっかけ
- ハロープログラムで得られたこと・もの

応募について

参加条件

- 応募時に**18歳～30歳**であること
- プログラム**全日程（8/24-9/2）**に参加できること
- プログラム前後に行われる**研修に参加**できること（**7/8 ,9/23**）

応募方法

- 応募フォームはDJJG HPにて掲載します（**3/19より**）

<http://djyg.org/>

※HJ2018の日本語ページも**3/19**に同時公開

【応募締切】**5/20**まで！

質問項目は全て事前に確認できるようになっています

ゆっくり応募できます！（^_-）
（応募は忘れないでくださいね 笑）

語学力の基準

- ヨーロッパ言語共通参照枠に準拠
- 現在のご自身の能力に当てはまると思ったレベルを選択してください
- 語学力を重要視しているわけではありません

語学力を自己判断で4段階評価してください。★

ヨーロッパ言語共通参照枠 C2以上：母語話者であるか、母語話者に遜色のないレベル。同
B2~C1：流暢に、また自然に自己表現ができる~専門的または抽象的な議題も理解できる。同
A2~B1：該当地域の旅行で起こりうる大抵の事態に対応できる~簡単に日常的な範囲なら、情報交
換ができる。同A1以下：学習を始めたばかり~挨拶、自己紹介、基本的な言い回しの理解や使用が
できる。細かい基準は下記をご覧ください。Wikipedia(ヨーロッパ言語共通参照枠):

<https://goo.gl/b2zkmR>

	C2以上	B2~C1	A2~B1	A1以下
日本語（リーディ ング&ライティ ング）	☐	☐	☐	☐
日本語（スピー キング&リスニ ング）	☐	☐	☐	☐

志望動機について

- 参加を希望するグループを選択し、志望理由を記述
 - 第一希望（250字）
 - 第二希望（250字）
 - 第三希望（150字）

志望動機は、選考の際に最も重視しているので、しっかりとテーマへの想いを書いてください。

お忘れなく！！

応募フォーム回答の際に、**ご自身の顔写真**をメールに添付して下記メールアドレスへ送ってください。

- Email:halloprogramm.jp@gmail.com

おまけ

昼も夜也大盛り上がり！！！！



Fragen?

質問タイム：
何でも聞いてね～！

お問合せ先

◇Hallo Japan 2018 運営チーム

Email: halloprogramm.jp@gmail.com

◇JG-Youth（日独ユースネットワーク）

HP: <http://jg-youth.net/>

Facebook: www.facebook.com/jgyouthnetwork/

◇DJJG（独日青少年協会）

HP: <http://djjg.org/>

Facebook: www.facebook.com/DJJGeV/

ご応募お待ちしております！

